

## 2024年度 事業計画書

### 1. 基本方針

新型コロナウイルス感染症とインフルエンザが並行して流行しており、まだまだ予断を許さない状況が続いているが、様々な医療分野での臨床研究・基礎研究・新薬開発などの重要性が改めて認識されている。

痛風や高尿酸血症の発症機序や治療に関する我が国の研究は、原因発見・ガイドライン発表・創薬などいずれの分野でも世界をリードしているが、痛風の原因物質である尿酸についてはまだまだ未解決の事も多く、更なる研究が期待されている。

当財団は研究者への支援助成を中心に、一般医師などを対象とした診療研修や一般の方々への啓発活動を事業の3本柱とし、国民保健の向上へ寄与することを活動の基本理念としている。

一方で財団の事業を運営するため資金である企業団体や個人からの寄付は減少傾向が続いている。この対策として昨年4月に港区の公益財団などを支援する制度（港区版ふるさと納税制度/団体応援寄付金）への登録を行った。今年度以降も引き続き寄付や賛助会費などと並行して支援をお願いする所存である。

### 2. 計画内容

#### (1) 研究助成

##### ◇対象

痛風・尿酸・核酸代謝に関する研究でその研究成果が疾患及び病態の成因と治療・予防に有用な影響を与えると期待される臨床的或いは基礎的な研究課題を挙げる団体・共同研究グループ及び個人に対して支援助成を行う。

助成は、痛風・尿酸代謝に関する臨床又は基礎分野で特色のある研究と一般的研究を対象として広く応募を受け付ける。特に優れた研究業績や研究計画に対しては「痛風・尿酸財団賞」を授与する。受付期間は、2024年9月1日より同10月31日までとする。

◇助成金総額予定 500万円

##### ◇選考方法

専門分野などを考慮して理事会で選定した選考委員に、理事長が委嘱し選考を行う。各選考委員は提出された応募資料の研究課題を予め採点し、その集計結果をもとに12月初旬の選考委員会に於いて審議を行い、助成対象者と個々の助成金額を決定する。

##### ◇研究成果の検証

当該助成による研究成果検証のために、2025年4月までに関係論文の提出を求める。

## (2) 痛風・尿酸研修会

第 35 回痛風・尿酸研修会を 2024 年 9 月 8 日(日)に日本教育会館にて開催する。全国の医師や薬剤師などの医療関係者を対象とし痛風や尿酸についての新しい研究成果に関する講演と診断や治療についての研修を行い、更に講師との質疑応答を通じて理解を深めることで痛風・尿酸に関連する疾患の医療の質の向上と発展を目指している。本年度の研修会プログラムは財団研修委員の山本徹也兵庫医科大学名誉教授を中心に作成され、本年 6 月までに決定し公表する予定である。

## (3) 痛風協力医療機関の拡充

患者や一般の方からの問い合わせでは医療機関の紹介依頼が最も多い。

「何科の医師の診療を受けたら良いか?」「専門の医師が診療に当たっている医療機関はどこか?」などの相談に対し、全国の約 120 ヶ所の痛風協力医療機関を紹介している。しかし当財団の協力医療機関はまだまだ東京や大阪など大都会に集中しており、地域によっては要望に応えるには十分とはいえず研修会参加医師への呼びかけや関係者からの推薦などにより協力医療機関を増やすよう努めて行く。

## (4) ホームページによる啓発事業

「理事長通信」「医学の地平線」「痛風・尿酸ニュース」のコラムにより、痛風・尿酸関係の最新情報を定期的に更新して医療関係者・患者・一般の方々への情報提供を行っている。財団ホームページへのアクセス数増加傾向にあり、これに応えるべく痛風の基礎知識から医療機関の紹介まで、医療関係者のみならず全ての人々に役立つ情報の提供を心掛け、本年も更にその充実を計る予定である。

## (5) 小冊子・会報の発行

痛風や尿酸に関する情報を要約している小冊子への要望は多く、協力医療機関などを通じて希望する患者へ行き渡るように対応して行く。個別の希望者に対しても都度対応して行く

又、研究成果や最新医学情報などを掲載した会報は 1 月に発行し、賛助会員や協力医療機関などへ送付することで情報伝達を計っていく。

## (6) 一般の方からの質問に対する対応

患者・家族・一般の方からの質問や問い合わせは引続き多く、その内容は医療機関の紹介依頼から始まり食事や飲料に関する注意点や痛風の治療薬に関する事など多岐に亘る。各々の質問に対しては痛風協力医療機関の紹介や専門分野の医師の助言を伝えている。このような啓発助言活動は今後もきめ細かく対応していく所存である。

以 上